

伊勢の今を伝える

春号

第9号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL(0596)23-5166 FAX(0596)23-5241
E-mail otayori@isebito.com

9

浜参宮ははじまる



神領民を迎える二見浦の二見興玉神社境内(御通代木奉曳年の撮影) 撮影/阪本博文



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

8面 7面 6面 5面 4面 2面・3面

●浜参宮の問い合わせ
二見興玉神社
☎ 0596-43-2020

浜参宮日程(予定)
4月4日本部、7日10団、14日11団、20日2団、21日9団、27日1団、
29日1団、5月11日1団、12日10団、
19日9団、26日6団、6月2日1団、
9日6団、16日・30日各1団

二見浦で浜参宮!
春の二見浦を歩こう
二見の名物あれこれ
遷宮入門(その七)
采野技師に聞く
いせびと歳時記

遷御の日、定まる

二十年に一度の大祭、第六十二回神宮式年遷宮の遷御の日が去る
二月二十五日、正式に定められた。

皇大神宮(外宮)

十月五日

豊受大神宮(内宮)

十月二日

式年遷宮は皇室にとって重要な

祭儀もあり、代々天皇陛下がお

定めになる。

鷦司神宮大宮司からは「みなさま方のまことに深いまごころによつて遷宮の諸祭や準備も着々と進んでまいりました。わたしどもは心を一つにしてご奉仕に専念し、陛下の御心にそよう務めたいたいと思います。いつそうのご協力をお願いします」との趣旨の謹話も、同時に発表された。

今夏は、旧神領をあげて「お白石持行事」が行われる。遷御へむけて、新宮の御敷地にお白石を奉納する伝統行事だ。

これに先だって行われる「浜参宮」は、心身を清める禊(みそぎ)にある。春の潮風のなか、七十餘の奉獻団が揃いの法被姿でぞくぞくと二見の海辺をめざす。木遣り子の声が響きわたり、子どもたちの手踊りも愛らしい。町内の絆を感じさせる行事である。



木遣り子を先頭に“をみな”的ご一行。



旅館街をゆく手踊り隊。



突堤まで春らんまん。

七十余奉獻団が
二見浦で
浜参宮!



心晴れやかに参拝。



わたしらも一人前や～。



無垢塩祓を受ける。



拝殿で木遣り奉納。



幟はためく参道。



夫婦岩表参道を行く(写真上)。袴に金扇。りりしい子ども木遣り子たち(同下)。

伊勢
名物

赤福



本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) フリーダイヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>



毎年5月21日、夫婦岩の沖で藻刈神事が行われる。二見興玉神社のお祓いの幣や授与品となる無垢塩草を刈る神事だ。

伊勢まいりでは、道中の宮川や五十鈴川で禊をする旅人も多かつたが、すでに江戸初期には参宮の前に二見浦へまわり、まず禊（浜参宮）をする慣わしも根付いていた。神宮の禊（ねぎ）をする月次祭（かなめ）では三節祭（神嘗祭・六月・十一月の月次祭）に先立ち、そろつて二見浦の海に出てお供えの海の

ようこそ、二見へ!

**浜参宮の見守り隊
「二見浦茶屋清渚連」
「敬神婦人会ボランティア」**



地元ボランティア代表の松本誠さん。

各地から大勢の浜参宮の人々を迎える二見町では、ボランティアによる“見守り隊”が組織される。4月からの神領民奉献団を担当するのは、二見浦茶屋清渚連。二見興玉神社の氏子でもあり、日頃から大注連縄の張替神事にも奉仕する意気軒昂なお仲間である。「安全に気持ちよくお参りいただけるように」と対策室長の五十子昌秀さん（51）。清渚連はトップに浜参宮を行う。

一方、7月、全国からの特別神領民をサポートするのは、敬神婦人会を母体とする地元ボランティアたち。代表の松本誠さん（73）は、「満足してお帰りいただけるよう、全員で地元の歴史などを勉強しているところです」と語る。



浜参宮をサポートする二見浦茶屋清渚連。

明治13年（1880）、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遙拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遙拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮（内宮）の御神徳を、皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

いせびとニュース

昔から、お伊勢まいりの前には川、海などの水辺で心身を清める禊を行なうのが、日本の“常識”だった。去年の「お木曳行事」、今夏の「お白石持行事」に臨む神領民の「浜参宮」は、その伝統ある作法を脈々と今日に伝えている。

「お白石持行事」の前に

いよいよ遷御の年を迎えた内宮・外宮ともに新宮の完成が間近に迫る。

新宮をすっぽり隠している覆屋が取り除かれたあと、ほどなく旧神領・伊勢で「お白石持行事」が始まる。この時に限り、旧神領民は四重の垣のめぐる奥深い正宮の御敷地に入り、新しい社殿を間近に見ることが許される。

参宮を行い、心身を清めてから参加することが各町奉獻団の習いとなつていている。

浜参宮とは、海辺で行う禊のことだ。

伊勢まいりでは、道中の宮川や

五十鈴川で禊をする旅人も多かつたが、すでに江戸初期には参宮の前に二見浦へまわり、まず禊（浜参宮）をする慣わしも根付いていた。神宮の禊（ねぎ）をする月次祭（かなめ）では三節祭（神嘗祭・六月・十一月の月次祭）に先立ち、そろつて二見浦の海に出てお供えの海の

と。お伊勢まいりと同じく古くからの伝統がある。

禊の起源は神話の中に

何より清浄を尊ぶ神道は、禊に始まり禊に終わる、といわれる。

禊とは、罪や穢れのあるとき、あ

まりは大事な神事の前に、川や海、

または湯水で身を清めることをい

う。

神社に参るとときに手水で手を洗

うのも一種の禊、大相撲の力士が

取り組み前に口をすぐのも、同

のもある。

その起源は、古事記の中の伊邪

那岐尊の禊にある。亡き妻のあと

を追つて黄泉の国に踏み込んでしまつた尊は、穢れたわが身を川で

すすいで清めたという、あの神話だ。

幸を漁り、潮で心身を清めて大祭の奉仕にあたつたという。二見浦が「清渚」と美称で呼ばれるのも道理なのだ。

現在、神領民の浜参宮ともなる

と、総勢およそ一万五千人が四月

はじめから週末ごとにやつてくる。

夏には全国各地からの特別神

領民約七万人も、二見浦で浜参宮

する。かれらを迎えるのは、夫婦

岩でおなじみの二見興玉神社だ。

その海辺にある二見興玉神社

は、主祭神・猿田彦大神のもとに、

日頃は縁結び、道開きに靈験あら

たかと知られる神社だ。

今年は、二十年に一度の「お白

禊」が執り行われる年。

五月二十一日に藻刈神事を行う。

夫婦岩の沖七〇メートルに鎮まる興玉

神石まで舟で近づき、無垢塩草（ア

マモ）を刈り採る神事だ。この海

草を洗い清め、天日に干し束ねた

ものが、黒々とした無垢塩草の幣

となる。

無垢とは汚心のない清浄なこ

と。無垢塩草には、塩水で身を清

め、穢れのない無垢な状態に戻す

禊と同じ靈妙な力が宿るとされる。

その昔、宮中の女官たちはこれ

を髪に結んで穢れを祓う信仰が

あつた。一方、伊勢志摩では正月

飾りの竹の枝に無垢塩草を結んで

おき、神社参拝のときには口に含

んだり、浴湯に入れて心身の清め

とするなど、暮らしの中に生きて

いた。海草を幣とする神社は各地

の海辺の神社にもみられ、出雲の

佐太神社（ホンダワラ）、金沢八景

の瀬戸神社（アマモ）などがある。

拝殿の中、奉獻団一同がかしこ

まって頭を垂れると、さわさわと

無垢塩草のわたらる氣配。微妙にた

だよう潮の香り……。海辺で禊をし

た気分満点である。

片岡昭雄宮司（85）は「この二見

浦一帯こそ日本書紀にいう『常世

の浪の重浪帰する所』と思われま

す。お白石持行事を見事に完遂な

されますように」と祝福する。

正宗派のお伊勢まいりは、 清渚（みよしづ）二見浦の浜参宮（禊）から



潮の香ふわり、
無垢塩草で浜参宮のお祓い

二見興玉神社



歩きで浜参宮

浜参宮は大団体なので、貸切バスやJR参宮線で「二見へ来るのだが、歩きて浜参宮」という元気組もある。大所帯で知られる宇治奉獻団だ。

歩ける者は歩くのが伝統ですね。高齢化もあって今日はバスも用意。それでも約200人歩きます。通りかかった町を讃美語することになります」と木遣り部長の山中孝さん（50）。

東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
<http://www.tokyodaijingu.or.jp/>
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線「飯田橋駅」徒歩5分



二見の祭り

春から夏にかけて、二見浦の清渚では、恒例の勇壮な祭りが行われる。

大注連縄張神事

二見興玉神社 5月5日午前10時より

二見浦の夫婦岩は、二見興玉神社のはるか沖にある興玉神石、また、日の大神を拝する鳥居とされる。男岩と女岩を結ぶ5連の大注連縄は年に3回張替えられるが、春は5月5日。注連縄は1本35m、40kg。これを張り替えるのは地元氏子たち。勇壮な木遣りが海辺に流れる。



夏至祭

二見興玉神社 6月21日午前3時30分より

夏至の朝、太陽は夫婦岩の真ん中より昇る。その厳肅な瞬間に合わせて禊をする祭。午前3時30分より夏至祭の祭典があり、日の出時刻(4時40分ごろ)より禊行事を行う。晴天に恵まれれば、遙かな富士山から昇る神々しい朝日が拝める。

参加申し込み 初穂料3000円
☎0596-43-2020(二見興玉神社)



元祖「赤福氷」の茶屋
赤福一見支店

ご存知、「赤福」の茶屋が二見にもある。庭つきの明るい店で、店員さんの接客ぶりはさすがに創



1個80円 5個入り400円
営業時間8時～売切れ次第閉店 不定休
☎0596-43-2226

赤福餅一盆(3個)280円
営業時間9時～9時半(4月中旬まで)
無休 各500円
☎0596-22-7000



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067

お抹茶セット400円
岩戸の塩まんじゅう一本630円
営業時間8時～20時 不定休
☎0596-43-2122(岩戸の塩工房)



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



くuyaや観助餅
くuyaや観助餅
6個入り660円
麩まんじゅう6個入り760円
営業時間9時～18時 休
☎0596-43-2067



遷宮入門

その七(最終回)

繰り返すことの
大切さ

今秋、いよいよ遷御の儀が斎行されます。千三百年という悠久の時をへて式年遷宮が繰り返されてきた背後には、この国の多くの人びとの「原点回帰」という共通理念がありました。

御代のさかえ

伴勢の宮み代のさかえ
いは まね

この和歌は、平成二十五年一月二日、上院議長の御代として、内閣総理大臣にさしあげられました。

月十六日は皇居正殿松の間で執り行なわれた歌会始で、歌人の岡野弘彦が天皇のお召しにより歌を詠進したものです。岡野はかつて宮中歌会始の選者を三十年間にわたり務めた國文學者として、式年遷宮が斎行される年であることをふまえ、遷宮のすべてを心の御柱に象徴します。

それを「み代のさかえ」とひとことで表したところが調べても美しく、実際に宫廷行事としての歌会始に相応しい一首であるといつたのです。式年遷宮は、國家の永遠の発展を天皇がお祈りになる日本で最大最要の祭典で、式年遷宮前行の両方を言機奉ったのです。式年遷宮は、國家の永遠の発展を天皇がお祈りになる日本で最大最要の祭典で、



古殿地（内宮）に建つ心の御柱の覆屋。

式年遷宮斎行の年

およそ三十の式年遷宮の諸祭
行事の後半は、いよいよ遷御せんぎょを中
心とする神遷うつしに関わる諸祭に移
行します。それまでご造営作業を主
担った小工こだまは、木造始祭こつけはじまつから立柱たてばし
祭や上棟祭などの重儀に奉仕しま
したが、正殿が完成した後の杵職こつきしょく
祭後は、祭儀は神宮司度の神職が
中心となり執り行われます。

原点回帰の祭典



木槌で各柱を打ち固める（内宮立柱祭）。

神宮の式年遷宮が續り廻し行なってきたことにより、実に大切な事がたくさん伝えられて来ました。第一に挙げられるのが「神をまつる」という固有の文化です。神をおまつりする時に最も重んじられるのが伝統です。それは多くの神祭りが、神の鎮座を再現したものであることに起因しています。最も古い信仰形態は、神は常在せず、定められた日に来臨し、定められた期間滞在し、定められた日に行くというものでした。やがて社殿が建てられると、神はそこに常在すると認識されるようになります。しかし、一年に一度行われる大祭は、神の鎮座の再現を繰り返す例が多く見られます。これは日本文化が原点回帰をいかに重んじ、日本人が原初に立ち返ることを共通理念としていかに大事にして来たのかを物語つているのです。

返す例が多く見られます。これは神の鎮座の再現を繰り返す大祭は、神宮の式年遷宮です。日本人が原初に立ち返ることを共通理念としていかに大事にしてきたのかを物語っているのです。

神宮の式年遷宮は、公儀が行う原点回帰の祭典として、万事に生じた厄難を祓い除くため、駆けて重んじられて来たからこそ、千三百年の時を経て、なお人々の心を動かしているに違ひありません。式年遷宮こそは、民族挙げて守るべき国家的大事業なのです。

継続することの意義

継続することの意義

仕組に応じてその結果を行ふのでは決してありません。時には日本人が意を決して取り組まなければ、守り抜けない事もあります。式年の造替を永遠に繰り返すためには、国土が健全でなければなりません。一例を挙げれば、二

千三百年の伝統を持つ価値は今
品では購うことができないもので
す。何人も力や财力で他者の伝法
を手にすることは決してできませ
ん。世界の歴史の中には、戦争や

ことは「せんぐん館」が展示を通して多くの方に訴えています。

度の遷宮で用いられる檜材

革命、飢餓や災害で国が消滅した例は枚挙に遑いとまがありません。その

外宮さんと内宮さん、二
永久に光輝く地で商いを
「光堂」と名づけました

祝第62回神宮式年遷宮

參宮客をもてたす

参宮客をもてなす
賓東家

